

調査

統計からみた福島県の果樹産業

本県は全国有数のフルーツ王国であり、「もも」や「りんご」、「日本なし」などの果樹栽培が盛んである。夏暑く冬寒いという寒暖差が果樹の生育条件に適して、美味しい果物を生み出すことができる気候条件にある。また、首都圏に近い立地条件から東京市場でのシェアが高い「もも」などの品目も多くみられる。

東京電力福島第一原発事故を受けて、果樹栽培農家では高圧洗浄機や樹木の皮はぎ等により懸命の除染作業を行ったものの、風評被害の影響で価格が大きく下落するなど厳しい状況に直面した。県や農業関係者などによる各種キャンペーンの実施や安全性のPRによって、平成24年以降に回復傾向がみられるが、まだ震災前の水準には戻っていない。

本稿では、農林水産省等が公表している各種統計をもとに本県の果樹栽培の現状について、主力産品の「もも」「りんご」「かき」「日本なし」を中心に考察した。

1. 福島県内の果樹栽培経営体数

(1) 市町村別の果樹栽培経営体数

～福島市と伊達市に約半数が集中～

本県における果樹栽培経営体数※は、平成22年2月1日現在で7,905経営体であり、農業経営体の11.0%を占めている。市町村別の果樹栽培経営体数は、福島市が2,286経営体（県全体の28.9%）と最も多い。以下、伊達市1,897経営体（同24.0%）、国見町527経営体（同6.7%）、桑折町490経営体（同6.2%）の順となっている。「もも」や「りんご」など果樹栽培が盛んな福島市と伊達地域北部に果樹栽培経営体が集中している。農業経営体に占める果樹栽培経営体の割合は、国見町66.9%と桑折町64.2%の両町で6割を超える。果樹栽培経営体数の80.5%が中通り地方にあり、警戒区域等の市町村では6.6%にとどまる（図表1）。

（※）…果樹栽培面積10アール以上の規模の農家

(2) 品目別経営体数

～約半数が「もも」を栽培～

品目別の福島県内の果樹栽培経営体数は、「もも」が3,856経営体（果樹栽培経営体に占める割合48.8%）と最も多い。以下、「りんご」2,612経営体（同33.0%）、「かき」2,569経営体（同32.5%）、「日本なし」1,497経営体（同18.9%）の順となっている（図表2）。

(3) 品目別の栽培経営体市町村順位

～福島市と伊達市が上位を占める～

品目別の栽培経営体数が上位の市町村をみると、「もも」は福島市1,437経営体（県全体の37.3%）が最も多く、次いで、伊達市1,048経営体（同27.2%）となっている。福島市・伊達市・国見町・桑折町の4市町村に約9割が集中している（図表3）。

「りんご」は福島市が1,311経営体（同50.2%）、「日本なし」も福島市が763経営体（同51.0%）と両品目の半数を福島市が占めている（図表4、図

表6)。「かき」は伊達市が1,185経営体(同46.1%)と約半数を占め、皇室にも献上されている身不知柿の産地である会津地方においては、会津美

里町215経営体(同8.4%)と会津若松市192経営体(同7.5%)を合わせると1割を超えている(図表5)。

図表1 福島県内市町村別の果樹栽培経営体数(平成22年2月1日現在)

(単位:経営体、%)

市町村名	農業経営体数	果樹栽培経営体数	果樹栽培が占める割合	県合計に占める果樹栽培経営体数割合	市町村名	農業経営体数	果樹栽培経営体数	果樹栽培が占める割合	県合計に占める果樹栽培経営体数割合
福島市	5,078	2,286	45.0	28.9	会津若松市	2,623	345	13.2	4.4
郡山市	5,794	221	3.8	2.8	喜多方市	3,401	91	2.7	1.2
白河市	2,380	96	4.0	1.2	下郷町	592	23	3.9	0.3
須賀川市	3,270	340	10.4	4.3	檜枝岐村	2	X	X	X
二本松市	3,546	133	3.8	1.7	只見町	409	2	0.5	0.0
田村市	3,346	20	0.6	0.3	南会津町	1,017	29	2.9	0.4
伊達市	3,429	1,897	55.3	24.0	北塩原村	211	6	2.8	0.1
本宮市	1,348	31	2.3	0.4	西会津町	659	22	3.3	0.3
桑折町	763	490	64.2	6.2	磐梯町	265	8	3.0	0.1
国見町	788	527	66.9	6.7	猪苗代町	853	12	1.4	0.2
川俣町	678	22	3.2	0.3	会津坂下町	1,253	111	8.9	1.4
大玉村	711	11	1.5	0.1	湯川村	397	8	2.0	0.1
鏡石町	472	50	10.6	0.6	柳津町	419	5	1.2	0.1
天栄村	632	11	1.7	0.1	三島町	70	X	X	X
西郷村	570	2	0.4	0.0	金山町	167	3	1.8	0.0
泉崎村	475	2	0.4	0.0	昭和村	201	1	0.5	0.0
中島村	424	3	0.7	0.0	会津美里町	1,605	352	21.9	4.5
矢吹町	883	5	0.6	0.1	会津計	14,144	1,018	7.2	12.9
棚倉町	866	25	2.9	0.3	いわき市	5,319	208	3.9	2.6
矢祭町	598	42	7.0	0.5	相馬市	1,285	62	4.8	0.8
塙町	873	25	2.9	0.3	南相馬市*	3,086	77	2.5	1.0
鮫川村	585	8	1.4	0.1	広野町*	232	3	1.3	0.0
石川町	1,119	38	3.4	0.5	檜葉町*	451	6	1.3	0.1
玉川村	635	36	5.7	0.5	富岡町*	515	3	0.6	0.0
平田村	760	4	0.5	0.1	川内村*	357	3	0.8	0.0
浅川町	468	2	0.4	0.0	大熊町*	495	60	12.1	0.8
古殿町	590	9	1.5	0.1	双葉町*	389	5	1.3	0.1
三春町	834	26	3.1	0.3	浪江町*	1,037	32	3.1	0.4
小野町	871	1	0.1	0.0	葛尾村*	251	4	1.6	0.1
中通り計	42,786	6,363	14.9	80.5	新地町	536	49	9.1	0.6
					飯館村*	771	11	1.4	0.1
					警戒区域等計	7,584	204	2.7	2.6
					浜通り計	14,724	523	3.6	6.6
					県合計	71,654	7,905	11.0	100.0

資料:農林水産省「2010年世界農林業センサス」

*印の市町村は警戒区域等

X表記は秘匿箇所

図表2 福島県内の品目別果樹栽培経営体数(平成22年2月1日現在)

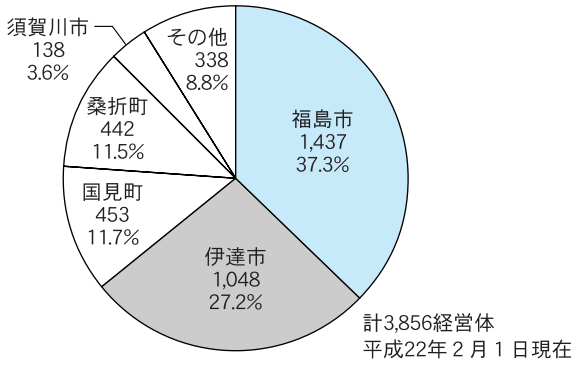
(単位:経営体、%)

順位	品目	栽培経営体数	果樹栽培経営体に占める割合	順位	品目	栽培経営体数	果樹栽培経営体に占める割合
1	もも	3,856	48.8	9	すもも	417	5.3
2	りんご	2,612	33.0	10	西洋なし	254	3.2
3	かき	2,569	32.5	11	キウイフルーツ	146	1.8
4	日本なし	1,497	18.9	12	くり	107	1.4
5	うめ	664	8.4	13	温州みかん除くかんきつ類	45	0.6
6	ぶどう	622	7.9	14	びわ	10	0.1
7	その他の果樹	518	6.6	15	温州みかん	5	0.1
8	おうとう	459	5.8		果樹栽培経営体総数	7,905	100.0

資料:農林水産省「2010年世界農林業センサス」

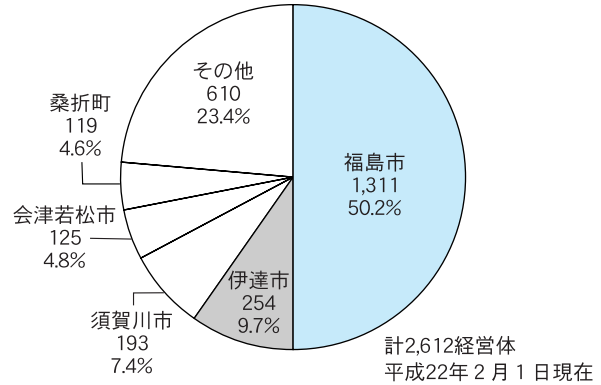
※重複品目あり品目計と総数は一致しない

図表3 市町村別「もも」の栽培経営体数（上位5位）
（単位：経営体）



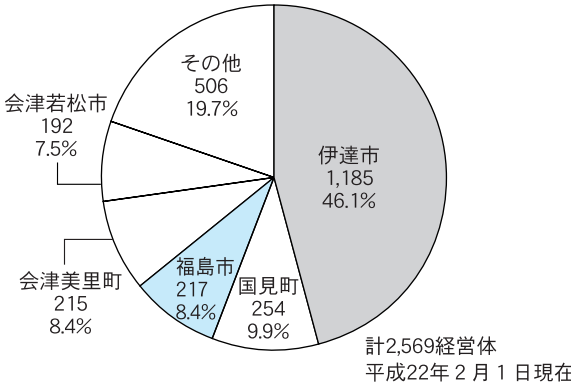
資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス」

図表4 市町村別「りんご」の栽培経営体数（上位5位）
（単位：経営体）



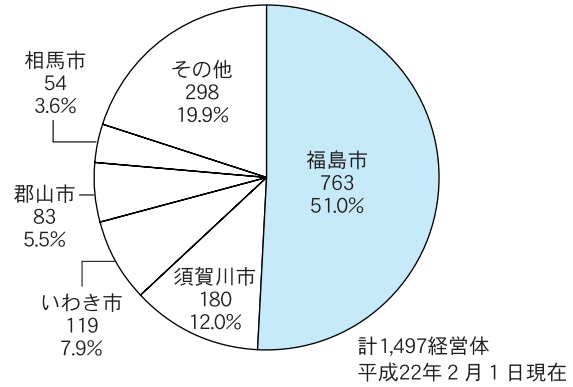
資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス」

図表5 市町村別「かき」の栽培経営体数（上位5位）
（単位：経営体）



資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス」

図表6 市町村別「日本なし」の栽培経営体数（上位5位）
（単位：経営体）



資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス」

2. 果樹栽培面積

(1) 福島県の果樹栽培面積

～「もも」が約1/4を占める～

本県における果樹栽培面積は、平成24年7月15日現在で6,815haとなっている。品目別にみると、「もも」が1,780ha（果樹面積の26.1%）と最も大きい。以下、「りんご」1,390ha（同20.4%）、「かき」1,350ha（同19.8%）、「日本なし」999ha（同14.7%）となっており、上位は果樹栽培経営体数の順と同じである。前年と比較すると「日本なし」が最大となる121ha減少している（図表7）。

主な栽培品種としては、「もも」が「あかつき」や「川中島白桃」、「りんご」が「ふじ」や「つがる」、「日本なし」が「幸水」や「豊水」などである。

(2) 全国の果樹栽培面積順位

～本県は全国第9位～

果樹栽培面積は、平成24年7月15日現在で青森県が23,110ha（全国に占める割合の9.9%）と最も大きい。以下、和歌山県20,207ha（同8.7%）、愛媛県19,535ha（同8.4%）、長野県14,727ha（同6.3%）などとなっており、「りんご」や「みかん」の産地県が上位を占めている。本県は6,815ha（同2.9%）で全国第9位の果樹栽培面積となっている（図表8）。

(3) 品目別の栽培面積県別順位

～本県の「もも」は全国第2位～

品目別の栽培面積が上位の県をみると、本県で栽培面積が最も大きい「もも」は、山梨県が

3,510ha（全国の32.8%）で全国首位となっている。次いで、本県1,780ha（同16.6%）となっている（図表9）。

「りんご」は、青森県が21,400ha（同53.9%）と半数を超え最も大きい。次いで、長野県8,060ha（同20.3%）であり、本県は1,390ha（同3.5%）で全国第6位となっている。青森県と長野県の2

県で7割を超えている（図表10）。

「かき」は、和歌山県が2,810ha（同12.4%）と最も大きい。次いで、福岡県1,970ha（同8.7%）であり、本県は1,350ha（同6.0%）で全国第5位となっている（図表11）。

「日本なし」は、千葉県が1,680ha（同12.2%）と最も大きい。次いで茨城県1,300ha（同9.4%）で

図表7 福島県の果樹栽培面積（平成24年7月15日現在）

（単位：ha、%）

順位	品目	面積	前年比	果樹面積に占める割合	全国面積に占める割合	全国順位	栽培面積1位の県
1	もも	1,780	0	26.1	16.6	2	山梨
2	りんご	1,390	▲20	20.4	3.5	6	青森
3	かき	1,350	▲40	19.8	6.0	5	和歌山
4	日本なし	999	▲121	14.7	7.2	4	千葉
5	うめ	473	▲45	6.9	2.7	7	和歌山
6	ぶどう	290	▲1	4.3	1.6	13	山梨
7	くり	197	▲39	2.9	0.9	29	茨城
8	すもも	160	▲1	2.3	5.1	5	山梨
9	おうとう	91	0	1.3	1.9	6	山形
10	西洋なし	44	▲5	0.6	2.7	8	山形
11	キウイフルーツ	29	▲16	0.4	1.3	22	愛媛
12	その他かんきつ類	12	▲1	0.2	0.0	35	愛媛
	合計	6,815	▲289	100.0	2.9	9	青森

資料：農林水産省「平成24年果樹及び茶栽培面積」

図表8 都道府県の果樹栽培面積順位（平成24年7月15日現在）

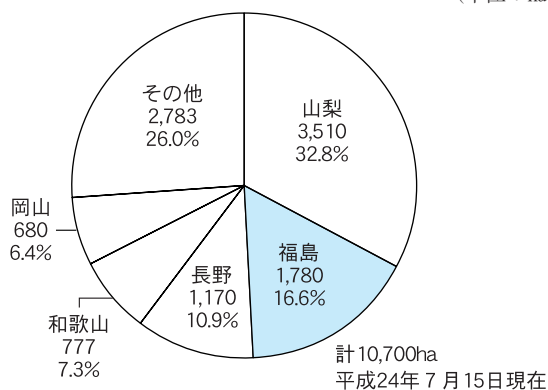
（単位：ha、%）

順位	県名	面積	全国に占める割合	面積首位の品目	首位品目の比率
1	青森	23,110	9.9	りんご	92.6%
2	和歌山	20,207	8.7	みかん	39.3%
3	愛媛	19,535	8.4	その他かんきつ類	44.1%
4	長野	14,727	6.3	りんご	54.7%
5	熊本	12,100	5.2	みかん	37.4%
6	山形	10,621	4.5	おうとう	29.7%
7	山梨	10,423	4.5	ぶどう	40.4%
8	静岡	8,807	3.8	みかん	68.5%
9	福島	6,815	2.9	もも	26.1%
10	茨城	6,654	2.8	くり	58.3%

資料：農林水産省「平成24年果樹及び茶栽培面積」

図表9 都道府県別「もも」の栽培面積（上位5位）

（単位：ha）

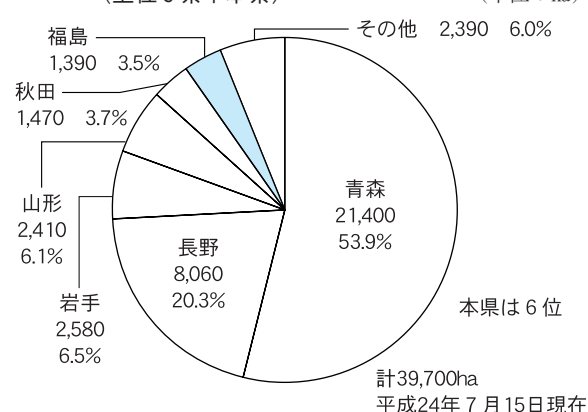


資料：農林水産省「平成24年果樹及び茶栽培面積」

図表10 都道府県別「りんご」の栽培面積

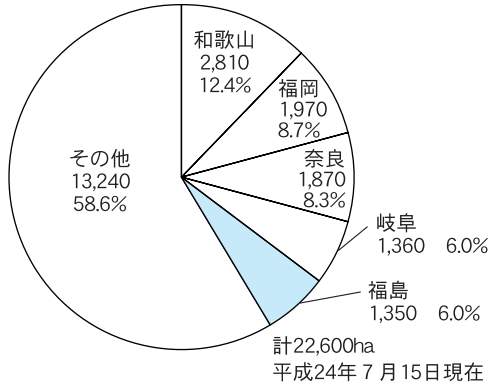
（上位5県+本県）

（単位：ha）



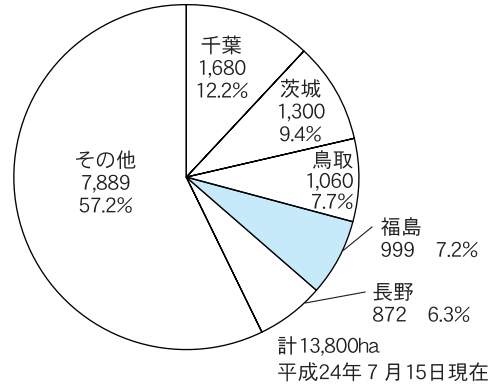
資料：農林水産省「平成24年果樹及び茶栽培面積」

図表11 都道府県別「かき」の栽培面積（上位5位）
（単位：ha）



資料：農林水産省「平成24年果樹及び茶栽培面積」

図表12 都道府県別「日本なし」の栽培面積（上位5位）
（単位：ha）



資料：農林水産省「平成24年果樹及び茶栽培面積」

あり、本県は999ha（同7.2%）で全国第4位となっている（図表12）。「かき」と「日本なし」は、「もも」や「りんご」ほど産地が寡占化していない。

した。作柄の悪かった前年に比べ開花期の天候に恵まれたことなどから増加した。全国に占める割合が20.7%を占め第2位である。

3. 福島県内の果樹収穫量と出荷量

(1) 主な品目の果樹収穫量

～「もも」の全国順位が第2位～

主な品目別の平成23年における本県果樹収穫量をみると、「もも」は29,000トンを前年比2.8%増加

「りんご」は、26,300トンを前年比▲16.8%減少した。平成23年は全国的に天候不順の影響を受けて「りんご」収穫量が減少しており、全国に占める割合は4.0%で前年と変わっていない。「かき」は4,550トンを前年比▲67.5%と大きく減少した。「かき」を原料とし乾燥させた「あんぽ柿」等が原発事故による生産自粛を要請された影響とみら

図表13 福島県の主な果樹収穫量・出荷量推移（単位：トン、%）

		H19	H20	H21	H22	H23	前年比
もも	収穫量	27,800	31,800	30,100	28,200	29,000	△2.8%
	全国に占める割合	18.5	20.2	20.0	20.6	20.7	0.1%
	出荷量	25,700	29,400	27,900	26,200	26,500	△1.1%
	全国に占める割合	18.7	20.4	20.2	20.8	20.7	▼0.1%
りんご	収穫量	35,100	37,800	36,800	31,600	26,300	▼16.8%
	全国に占める割合	4.2	4.2	4.4	4.0	4.0	±0.0%
	出荷量	31,400	33,700	32,800	28,100	23,000	▼18.1%
	全国に占める割合	4.2	4.2	4.4	4.0	4.0	±0.0%
かき	収穫量	12,600	16,100	13,600	14,000	4,550	▼67.5%
	全国に占める割合	5.1	6.0	5.3	7.4	2.2	▼5.2%
	出荷量	10,400	13,500	11,300	12,000	3,540	▼70.5%
	全国に占める割合	5.3	6.3	5.3	7.7	2.1	▼5.6%
日本なし	収穫量	22,700	25,500	25,600	23,200	21,600	▼6.9%
	全国に占める割合	7.6	7.8	8.1	9.0	7.5	▼1.5%
	出荷量	21,100	23,500	23,700	21,500	20,000	▼7.0%
	全国に占める割合	7.7	7.8	8.1	9.0	7.6	▼1.4%
	全国順位	4位	3位	3位	3位	4位	▼1位

資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

れる。「日本なし」は21,600トで前年比▲6.9%減少となった（図表13）。

(2) 主な品目の出荷量

～「もも」の全国順位が第2位～

主な品目別の平成23年における本県果樹出荷量をみると、「もも」は26,500トで前年比1.1%増加した。全国に占める割合は全国第2位の20.7%と大きな地位を占めている。「りんご」は23,000トで前年比▲18.1%と大きく減少した。全国に占める割合と全国順位は前年と変わっていない。「かき」は3,540トで前年比▲70.5%と大きく減少した。全国に占める割合が前年比▲5.6%減少し、全国順位も前年の第4位から第11位へと大きく低下した。「日本なし」は20,000トで前年比▲7.0%減少となった（図表13）。

(3) 品目別の出荷先ごとの出荷量

～加工業者向けが全国に比べ高い～

平成18年における出荷先ごとの出荷量をみると、

本県の「果実計」は、「卸売市場」に77.8%、「加工業者」に18.9%が出荷される。全国に比べると「加工業者」に出荷される割合がやや大きい。

品目別にみると、「もも」は、「卸売市場」に73.4%、「加工業者」に23.8%となっている。「りんご」は、「卸売市場」に56.5%、「加工業者」に37.8%となっている。「もも」と「りんご」とともにジュース用として「加工業者」に出荷される割合が高く、特に「りんご」は全国平均を28.2%も上回っている。「かき」は「消費者への直接販売」が10.1%であり他の品目に比べ高い。「日本なし」は96.9%と大部分が「卸売市場」に出荷されている（図表14）。

4. 果実の産出額

(1) 福島県の果実産出額

～23年に197億円を産出～

本県の農業産出額は平成23年に1,851億円であり、うち果実が197億円（全体の10.6%）となっ

図表14 品目別の出荷先ごとの出荷量（平成18年）

（単位：トン、%）

			合計	卸売市場	小売店	加工業者	外食産業等 業者向け	消費者への 直接販売	その他
果実計	福島	出荷量	54,600	42,500	141	10,300	174	1,370	157
		構成比	100.0	77.8	0.3	18.9	0.3	2.5	0.3
	全国	出荷量	1,996,000	1,581,000	54,000	199,100	4,650	58,200	98,700
		構成比	100.0	79.2	2.7	10.0	0.2	2.9	4.9
もも	福島	出荷量	24,100	17,700	X	5,730	X	417	—
		構成比	100.0	73.4	X	23.8	X	1.7	—
	全国	出荷量	106,000	86,300	1,190	14,900	150	2,920	547
		構成比	100.0	81.4	1.1	14.1	0.1	2.8	0.5
りんご	福島	出荷量	10,500	5,930	—	3,970	X	412	X
		構成比	100.0	56.5	—	37.8	X	3.9	X
	全国	出荷量	514,600	368,300	16,000	49,600	680	20,900	59,000
		構成比	100.0	71.6	3.1	9.6	0.1	4.1	11.5
かき	福島	出荷量	1,760	1,400	X	106	X	178	18
		構成比	100.0	79.5	X	6.0	X	10.1	1.0
	全国	出荷量	147,100	134,400	4,910	1,030	1,510	4,120	1,110
		構成比	100.0	91.4	3.3	0.7	1.0	2.8	0.8
日本なし	福島	出荷量	16,000	15,500	X	174	X	325	—
		構成比	100.0	96.9	X	1.1	X	2.0	—
	全国	出荷量	172,500	152,800	2,980	268	320	13,000	3,080
		構成比	100.0	88.6	1.7	0.2	0.2	7.5	1.8

資料：農林水産省「平成18年青果物集出荷機構調査」

* X表記は秘匿箇所

ている。内訳としては、「りんご」が第7位で66億円（同3.6%）、「もも」が第8位で55億円（同3.0%）、「日本なし」が第10位で46億円（同2.5%）であり、ベスト10に果実から3品目が入っている。農業に関して肉・野菜など軒並み産出額が減少しており、果実においては、「もも」が22年101億円→23年55億円（前年比▲45.5%）、「日本なし」が22年74億円→23年46億円（同▲37.8%）と大きく減少した。「りんご」は全国的な品不足から価格が上昇したため、減少幅が前年比▲5.7%減少とやや少なめであった（図表15）。

果実産出額の全国順位は、青森県が751億円（全国に占める割合10.1%）と最も大きい。以下、和歌山県604億円（同8.1%）、山形県524億円（同7.1%）、愛媛県496億円（同6.7%）の順となっている。栽培面積の全国順位に比べ、「おうとう」

の山形県や「ぶどう」と「もも」の山梨県などの「りんご」や「みかん」が主力以外の県が上位に食い込んでいる（図表16）。

(2) 本県における果実産出額の構成比
～23年に「りんご」と「もも」の順位が逆転～

平成23年の本県における果実産出額197億円の内訳は、「りんご」が66億円（構成比33.5%）と最も大きかった。次いで「もも」55億円（同27.9%）、「日本なし」46億円（同23.4%）の順となっており、上位3品目で8割を超える。震災前の22年には「もも」が34.6%で最も大きかったが、風評被害等の影響によって価格が低下し、果実産出額に占める比率が下がった（図表17）。

図表15 福島県の農業産出額順位(平成23年) (単位: 億円、%)

順位	品目	産出額	農業産出額に占める割合	前年の産出額	前年比
1	米	750	40.5	791	▲ 5.2
2	肉用牛	110	5.9	155	▲ 29.0
3	鶏卵	103	5.6	130	▲ 20.8
4	きゅうり	96	5.2	113	▲ 15.0
5	豚	84	4.5	101	▲ 16.8
6	生乳	74	4.0	98	▲ 24.5
7	りんご	66	3.6	70	▲ 5.7
8	もも	55	3.0	101	▲ 45.5
9	トマト	54	2.9	80	▲ 32.5
10	日本なし	46	2.5	74	▲ 37.8
	果実計	197	10.6	292	▲ 32.5
	計	1,851	100.0	2,330	▲ 20.6

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

図表16 果実産出額の上位10県(平成23年)

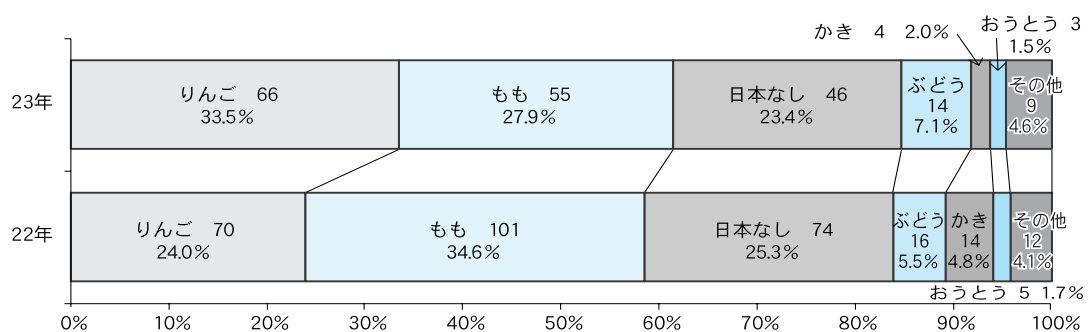
(単位: 億円、%)

順位	県名	実額	全国に占める割合	県の農業産出額に占める割合
1	青森	751	10.1	26.8
2	和歌山	604	8.1	59.6
3	山形	524	7.1	24.3
4	愛媛	496	6.7	39.0
5	山梨	491	6.6	62.0
6	長野	482	6.5	21.3
7	熊本	321	4.3	10.3
8	静岡	296	4.0	13.9
9	福岡	225	3.0	10.3
10	福島	197	2.7	10.6
	計 全国	7,430	100.0	8.9

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

図表17 福島県における果実産出額の構成比

(単位: 億円)



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

(3) 品目別の産出額上位県

～本県から「もも」などが全国上位に
ランクイン～

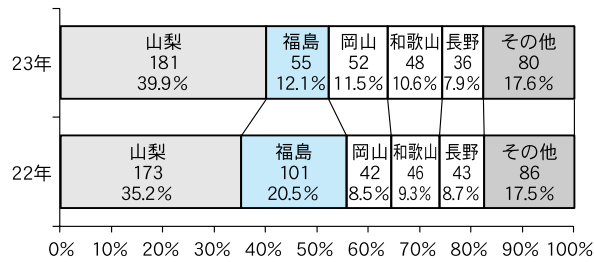
主な品目別に本県産出額の全国割合と順位をみると、「もも」は23年に12.1%で全国第2位である。順位は変わらないものの割合が8.4%低下し、山梨県や岡山県の割合が少し上昇した（図表18）。

「りんご」は23年に5.0%で全国第4位である。青森と長野両県で7割を超える（図表19）。

「日本なし」は23年に5.7%で全国第5位である。順位は変わらないものの割合が3.2%低下した。千葉県や茨城県など人口の多い大消費地に近い県の割合がやや大きい（図表20）。

図表18 都道府県別「もも」の産出額（上位5県）

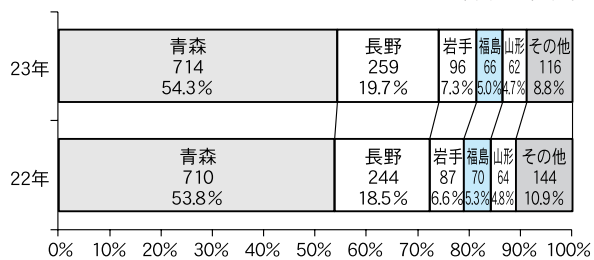
（単位：億円）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

図表19 都道府県別「りんご」の産出額（上位5県）

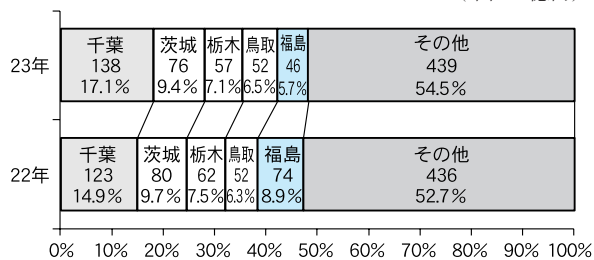
（単位：億円）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

図表20 都道府県別「日本なし」の産出額（上位5県）

（単位：億円）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

5. 東京市場における取扱量

(1) 本県産果実取扱数量の推移

～被災地支援の動きから震災年に増加～

東京中央卸売市場における本県産果実の取扱量は、平成24年に9,246トとなり、平成23年比▲28.9%と大きく減少した。東日本大震災と原発事故を受けて、被災地支援と風評被害払拭のため、平成23年に取扱数量が急拡大したが、平成24年になると震災前の水準以下に戻った。特に本県の主力産品である「もも」については、平成22年3,837ト→平成23年5,970トへと約2,000ト増加したが、平成24年には元の水準に戻っている（図表21）。

(2) 平均価格の推移

～24年に回復の動きを示す～

平成22年には「もも類」と「日本なし類」の価格上昇によって本県の果実計での平均価格は418円に上昇した。震災のあった平成23年に約半分に近い253円まで急減したが、平成24年に288円まで上昇した。

品目別に本県産の価格推移をみると、「りんご類」は震災前後でやや低下しているものの大きな変化はない。一方、本県の主力産品である「もも類」は、震災前の平成22年439円→平成23年223円へと約半分になったが、平成24年に340円まで回復している。「日本なし類」は、平成22年292円→平成23年186円へと約2/3まで低下したが平成24年に241円まで戻った（図表22）。震災復興支援のために平成23年に取扱数量が急増したが、平均価格が低下しており取扱金額としては震災前を下回った。

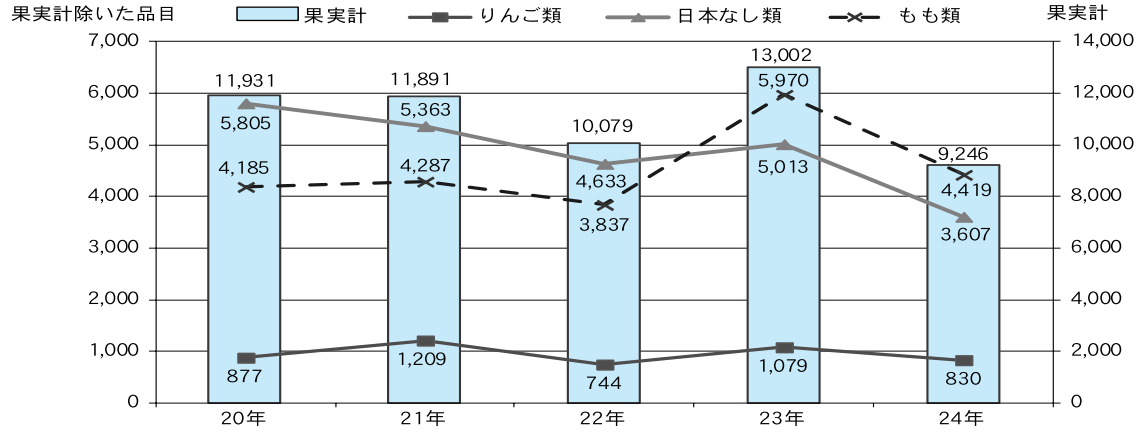
(3) 「もも」の取扱動向

～東京市場で大きな地位を占める本県産もも～

東京中央卸売市場での「もも」の取扱数量は、

図表21 東京中央卸売市場における福島産取扱数量推移

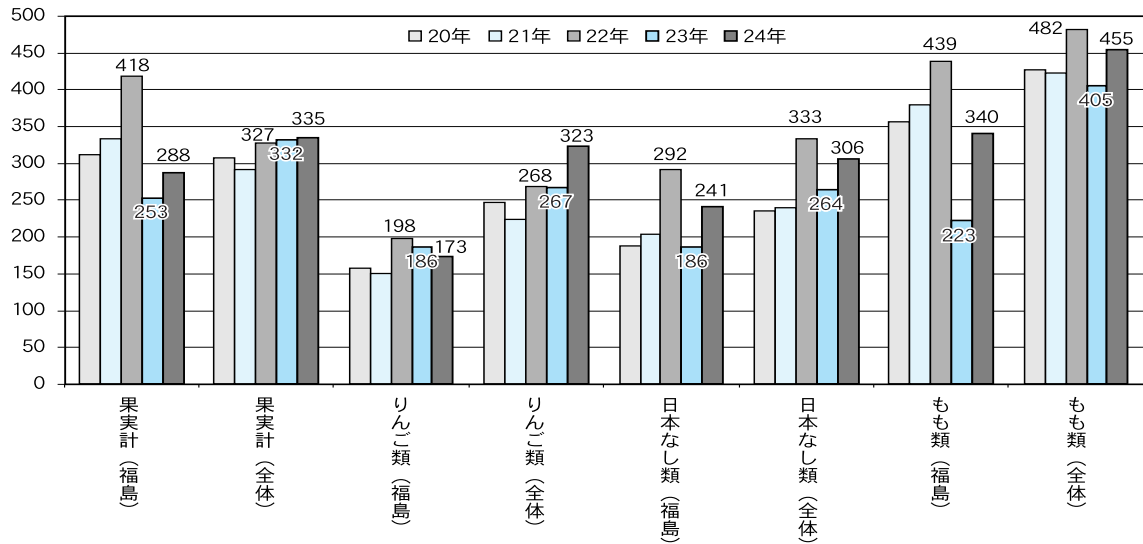
(単位：トン)



資料：東京中央卸売市場 HP「市場統計情報」

図表22 東京中央卸売市場における平均価格推移

(単位：円)

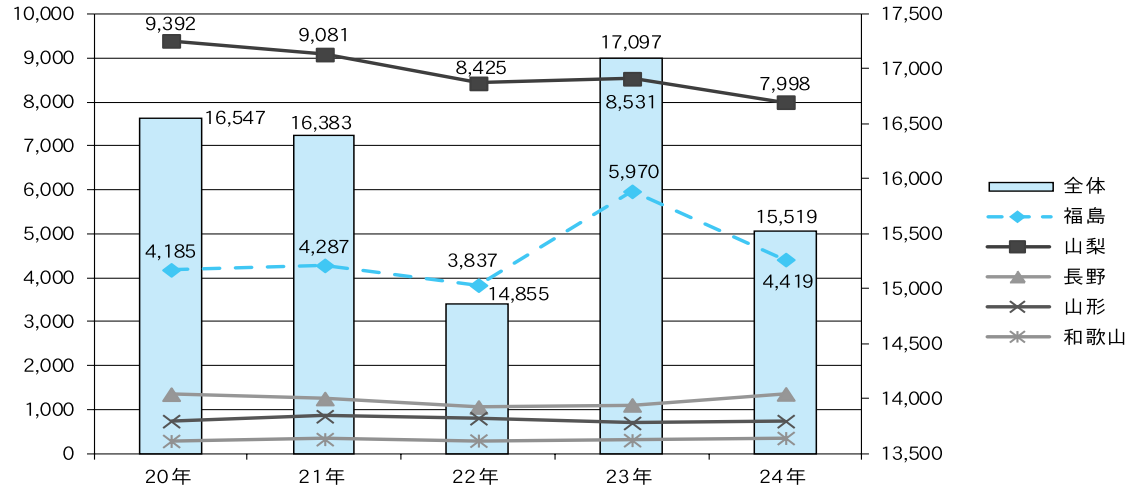


資料：東京中央卸売市場 HP「市場統計情報」

図表23 東京中央卸売市場における産地別「もも」の取扱数量推移

県別 (全体除く)：トン

全体：トン



資料：東京中央卸売市場 HP「市場統計情報」

本県産が増加したこともあって平成23年に拡大したが、平成24年には大震災前の水準並みに戻っている。全国シェアが首位である山梨県産の取扱量は、大震災前後で横ばいであるため、本県産の取扱動向によって取扱数量が変化につながったものとみられる（図表23）。

同市場での県別シェア推移をみると、約5割が山梨県、約3割が本県であり、両県で約8割と大半を占めている。大震災前に比べ本県シェアは増加し、一方、山梨県はやや減少している。特に平成23年には震災復興支援のため、本県シェアが34.9%まで拡大した（図表24）。

同市場での県別平均価格推移をみると、山梨県が500円前後の高価格帯で安定推移するのに対し、

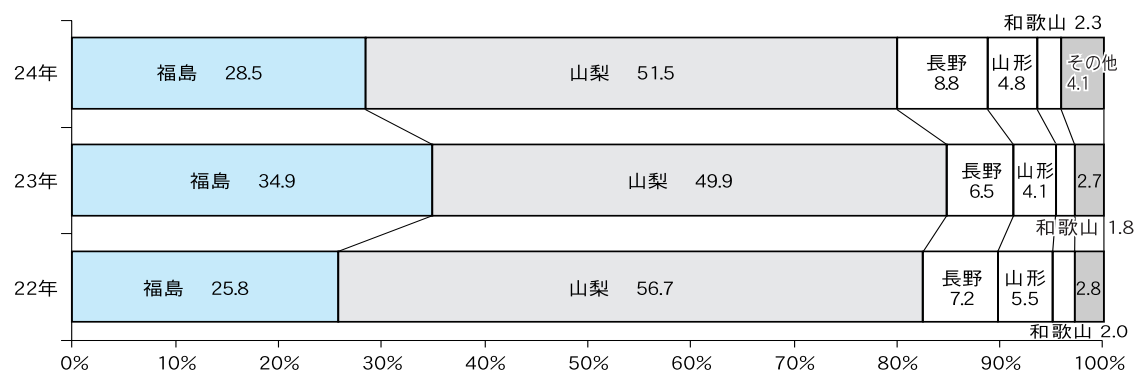
本県産は大震災直後に平均価格が下がったものの、平成24年には340円まで回復した（図表25）。

6. 原発事故の影響

(1) 放射性物質の検出

東電福島第一原発事故に起因する放射性物質による汚染は樹木にも及んだ。降下した放射性物質が樹木に付着し、果実や新芽に転流することによって汚染された。県によるサンプル調査が行われており、暫定規制値（500ベクレル/kg）や平成24年4月1日からの新基準値（100ベクレル/kg）を超えた品目の該当産地における出荷や収穫が制限された。平成25年2月2日現在で11品目について

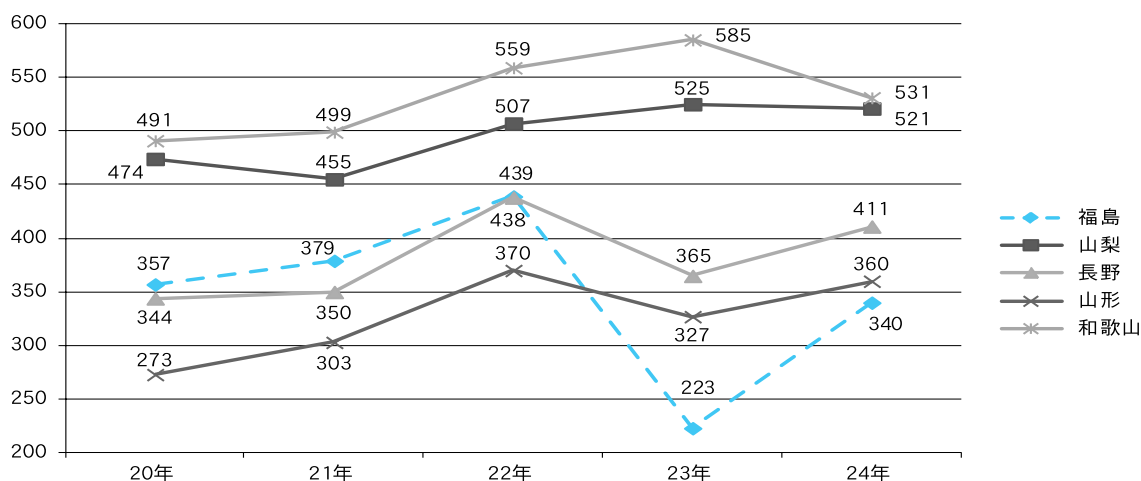
図表24 東京中央卸売市場における「もも」の取扱量シェア推移



資料：東京中央卸売市場 HP「市場統計情報」

図表25 東京中央卸売市場における産地別「もも類」の平均価格推移

(単位：円)



資料：東京中央卸売市場 HP「市場統計情報」

て一部地域での出荷制限等が続いている(図表26)。

(2) 風評被害の影響

原発事故に起因する風評被害の影響が果物の消費動向に大きく及んだ。品目ごとの放射性物質のサンプル検査が行われ、基準値を超えた地域のもものは市場に出回っていないにも関わらず、本県産購入を控える動きがみられた。特に単価の高い贈答用が伸び悩んでおり、果樹農家の経営に大きな影響を与えている。今後も本県産の果物が安全であることを消費者に広くアピールしていくことが重要である。

(3) 安全・安心な体制づくり

～除染・検査・出荷制限で万全な体制～

① 除 染

樹木の除染対策としては、樹体に付着した放射性セシウムを樹体表面の皮を削ることや高圧洗浄機で樹体を洗浄するなどによって行われてきた。そのような除染対策の作業を実施した結果、果樹園での空間線量が80%低減されると報道されるなど効果が出ている。また、県農業総合センターの研究によれば、放射性物質に汚染されたモモ樹木から果実へと移行する放射性セシウムは微量であり、年を重ねるごとに減少することが推計されている。

図表26 摂取や出荷等を差し控えるよう要請している福島県産果実(平成25年2月2日現在)

品 目	該 当 産 地	内容
ウメ	福島市、伊達市、南相馬市、桑折町、国見町	出荷
	川俣町	収穫
ビワ	南相馬市	出荷
ユズ	福島市、伊達市、南相馬市、いわき市、桑折町	出荷
	二本松市、本宮市(旧白沢村に限る)、相馬市、川俣町、広野町、天栄村	収穫
ザクロ	伊達市	出荷
カキ	南相馬市	出荷
キウイフルーツ	相馬市、南相馬市	出荷
ブルーベリー	田村市	出荷
	伊達市保原町	収穫
スダチ	福島市(旧福島市に限る)	収穫
あけび	伊達市	出荷
ギンナン	伊達市(旧保原町、旧月館町及び旧霊山町の区域に限る)、南相馬市(旧原町市に限る)、川俣町	収穫
ミカン	広野町	出荷

資料：福島県「ふくしま新発売 HP」

図表27 福島県産果樹の放射性物質検査状況<スクリーニング検査>

も も	測定下限値 未満(<25)	26~50 ベクレル/kg	51~75 ベクレル/kg	76~100 ベクレル/kg	計	検 査 日
検査点数	9,693	110	0	0	9,803	24年6月20日~24年9月26日
割 合	98.8779%	1.1221%	0%	0%	100%	
りんご	測定下限値 未満(<25)	26~50 ベクレル/kg	51~75 ベクレル/kg	76~100 ベクレル/kg	計	検 査 日
検査点数	2,001	29	0	0	2,030	24年9月6日~24年12月28日
割 合	98.5714%	1.4286%	0%	0%	100%	
か き	測定下限値 未満(<25)	26~50 ベクレル/kg	51~75 ベクレル/kg	76~100 ベクレル/kg	計	検 査 日
検査点数	48	1	0	0	49	24年10月12日~24年12月5日
割 合	97.9592%	2.0408%	0%	0%	100%	

資料：ふくしまの恵み安全対策協議会 HP「放射線物質検査情報」

② 検査体制

果実についての検査は、出荷開始3日前から出荷初期段階で検査を行い、問題がない場合には月単位で間隔をあけて定期的に検査が実施されている。

県などは放射性物質のモニタリング検査と自主検査結果をホームページで公開しており、食の安全・安心を訴えている。県による調査のほか、出荷前にJAや出荷業者等が検査機器を使用して自主検査を行っており、基準値を超えた果物が市場に出回ることは無い。除染などによって放射性物質の低減策がとられ、収穫後には放射性物質検査が実施、その検査結果によって出荷制限が行われることで、出荷・流通される産物の安全確保が図られている。

本県内で生産された果物について、県では、定期的に放射性物質検査の結果を公表しており、ホームページで「もも」「りんご」「かき」の3品目について公表している。いずれも検査の結果、全て基準値内となっており、51ベクレル/kgを超過するものは全くない（図表27）。

(4) 本県産果物復興に向けた動き

～明るい兆しが見え始める～

① ふくしまのくだもの体感ツアー

福島市は、平成23年（りんご狩り）と平成24年（もも狩り）に県外居住者（主に首都圏）を対象とした1泊2日の「ふくしまのくだもの体感ツアー」（約70人）を実施した。実際に果物狩りや農家と交流することで福島産果物への理解を深めてもらい、また、市内観光や温泉宿泊など行うことで、風評被害の払拭を図ると同時に農産物と観光の両面をアピールした。2年連続の参加者も8人いるなど、ツアーは好評を博した。

② タイへの輸出再開

タイへの果物輸出は平成19年から開始していたが、震災後に規制され中断していた。平成24年8

月に同国の流通業者バイヤーを本県に招き、除染への取り組みや放射性物質検査を見学してもらうことなどによって、本県果物の安全性を理解した同国が輸入を再開した。9月には「もも」が同国の首都バンコクの老舗デパートと大型商業施設で販売され、まとめ買いする客もみられるなど大人気のなか完売となった。同国バイヤーから本県産農産物をもっと取扱いたいとの声もあがり、12月には同国への「りんご」輸出も再開された。他の国に対する本県産果物の輸出が再開される日が来ることが待ち望まれる。

7. おわりに

本県産は安全・安心な果物であることを消費者に訴えるために、県や農業関係者は懸命な活動を行っている。消費者に果樹栽培の現場をみてもらうことや小売店の店頭などでのPR活動を地道に積んでいくことで、一人でも多くの消費者が本県産果物を購入するように結びつくことが望まれている。震災の年には、被災地を支援するため本県産を購入する動きもみられたが、年月を経て震災と原発事故が人の記憶から風化するにつれて、積極的に応援しようという動きが弱まってきているように感じられる。

本県は様々な果物の生産量が全国上位を占めているが、「もも」は山梨県、「りんご」は青森県など知名度の高い産地にブランド力で負けている面がある。美味しい果物であることを理解してもらうために、まずは本県産を食べてもらうことが肝心である。平成24年9月には、県と農業関係者のPR活動によって、タイへの「もも」の輸出が再開されるなど明るい兆しも徐々に見え始めている。今後も地道なPR活動によって、本県産の安全・安心であることを広く消費者に訴えていくことが重要である。

（担当：高橋）